

#

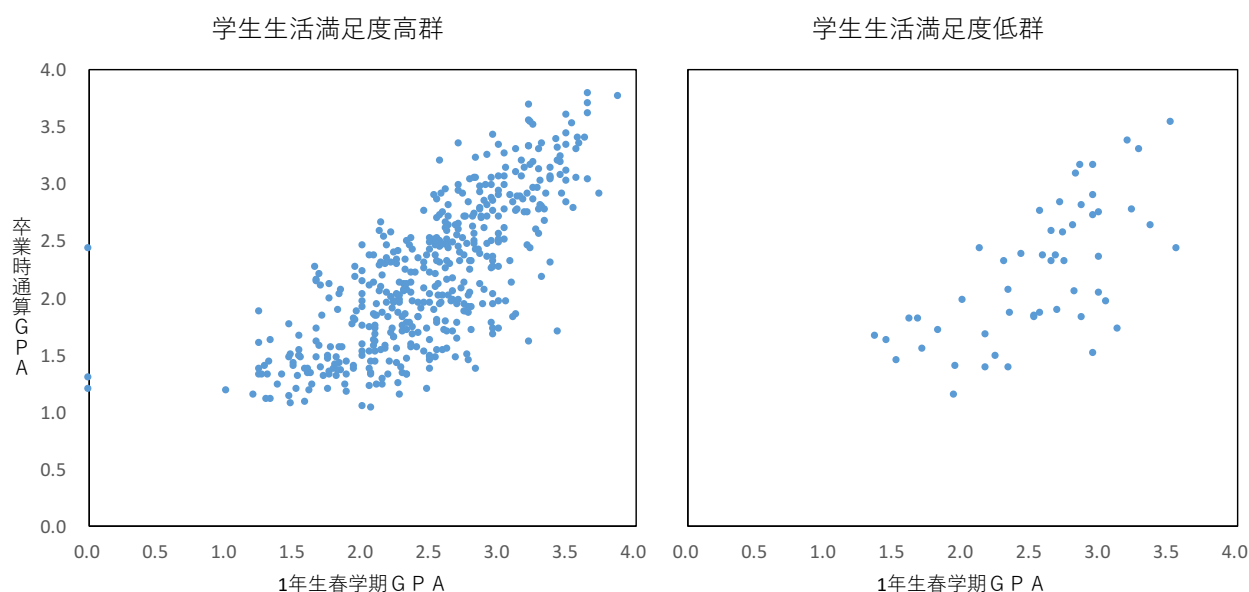


図 1 学生生活満足度群別 GPA 散布図

考察

表 1 および独立性の検定の結果から、学生満足度と GPA 値の間に明確な関係性は見られなかった。このことは、満足度と成績の間に関連がないことを示唆している。これは、GPA 値の計算方法に検討すべき余地があるとも考えられるが、現状の大学教育から考えると妥当な結果であると思われる。このことから、表 1 のように学生を 4 つの群にタイプ分けできるのではないだろうか。その際、大学教育上問題になるのは満足度が低く、GPA 値も低い群であろう。本研究の結果からその群の学生が全体の 4.5%にあたる 23 名いた。この群の学生についてより詳細な検討が必要であろう。

また、図 1 および相関係数より、学生の GPA 値は 1 年生の時からあまり大きく変動しないことがわかった。このことは、学力に関して入学時の相対的順位が変動しないことを表している。したがって、GPA の値から学生の成長を推測することは難しいと言える。吉田ら（2016）によると、卒業生アンケートでは学生自身が自分の成長を実感している。GPA 値についても学生の成長を客観的に表すことができるよう、計算方法や利用方法について検討していくことが必要であろう。

参考文献

- 稲垣麻央・能上慎也. (2013). 科目難易度と個人成績を考慮した新しい GPA の提案. 信学技報 IEICE Technical Report, SWIM2013-14, 15-26.
- 後藤和雄. (2006). GPA 定義の問題点とその一般化. 鳥取大学大学教育総合センター紀要, 第 3 号, 11-27.
- 長尾俊明. (2015). 教学データのエンロールメント・マネジメントへの応用-学生の学修活動と出学状況の関係性-. 追手門学院大学大学院経営学研究科修士論文.
- 半田智久. (2006). GPA 制度に対する関心と導入の状況. 静岡大学教育研究, 2, 1-9.
- 半田智久. (2008). GPA 制度の研究: functional GPA に向けての提言.
<http://hdl.handle.net/10297/2064>, 1-143.
- 半田智久. (2012). GPA 算法の比較検証: 従前の GPA から functional GPA への以降とその最適互換性をめぐって. 高等教育と学生支援: お茶の水女子大学教育機構紀要, 第 2 号, 22-30.
- 吉田尚子・米澤慎二・原田章. (2016). 内部保証システムの構築-卒業生アンケート実施プロセスと観点-. 大学行政管理学会第 20 回定期総会・研究集会資料集.